



11/25  
WED



①「海の家あたた」から望む灯台資料館。対岸に岩国市が見えます。②資料館を前に敬礼。右から2人目広島海上保安部副持次長。



③感謝状を手にして「灯台資料館」と「海の家あたた」を管理する本田幸男さん(前列中央)本田道枝さん(前列左)伊東愛子さん(前列右)④沖の岩礁に立つ安芸白石灯標。海面からの高さ約17m。⑤資料館の中には、かつて使われた灯ろうなどが展示。



11月20日 県と市職員の合わせて約50人が、豪雨災害を想定した災害対策本部図上訓練を実施。想定シナリオによりコントローラー役が、市内で起こっている床上浸水、河川の氾濫、土砂崩れなどの状況を矢継ぎばやに本部に送ります。事前にシナリオを知らされていない本部の各班は、即座に判断し対応をシミュレーションする訓練です。また、市独自でも同様の図上訓練を毎年行い、いざというときに備えています。



12月12日「みんなでつくり安全・安心なまち」とスローガンを掲げ、ゆめタウン大竹と周辺で、年末特別警戒街頭活動が行われました。大竹警察署員や防犯連合会のメンバー23人を前に、大竹警察署長は、「住む人、来る人が安全・安心を実感できる広島県に」とあいさつ。広島県警防犯マスコットの「モシカ」も加わり、啓発チラシとマスクなどのグッズを配布し、年末の防犯対策を呼び掛けました。

**阿多田島灯台資料館**  
灯台守の暮らし伝える灯台資料館

阿多田島の東南約3kmの沖合、大黒神島との間に、明治36年に設置された安芸白石灯台立標(現安芸白石灯標)。その管理のための職員が、昭和53年まで住んでいた、れんが造りの洋風の建物は、平成8年に国の有形文化財に登録され、市は灯台資料館として公開しています。

11月1日の灯台記念日にちなみ、維持管理をしている教育委員会に、広島海上保安部から感謝状が贈られました。感謝状を受け取った小西教育長は「大竹の宝として次の世代につないでいきたい」と応えました。

伝達式の後、海上保安部の一行は、阿多田島に渡り資料館を見学。館内に展示してある職員が使っていた生活用品などに見入っていました。

資料館の見学は、生涯学習課(☎536677)に予約が必要です。



11/27  
FRI

**自分らしく夢に向かって**  
大竹高校

児童・生徒の見守り活動をしているNPO法人『ハローの仲間』は、毎年市内の各学校に横断幕を贈っています。大竹高校に贈った横断幕に掲げられた標語は、全校生徒から募集。美術部や書道部の生徒が、筆を執って仕上げたものです。「個性を輝かせ、夢に向かって飛べ!!」という言葉を考えてのは、1年生の上杉れいさん。将来はスポーツ関係の仕事に就きたいという上杉さんは「個性は自分にしかない。夢に向かって自分らしく進めたらいい」と言葉に込めた思いを語ってくれました。

贈呈式では、「この標語を胸にして、大切にしたい」と生徒会長の岡藤佳奈さん(2年)が、お礼の言葉を述べました。



①届いたばかりの「あたたまちtoレモン」をさばき、競りの声を上げる北林組合長。②「何見とるんじゃ」オニオコセがにらみず。③競り落としたハマチの切り身と紅白餅を持った広島市佐伯区から来た渋谷康介くん(右3歳)結衣ちゃん(中7歳)健一郎くん(左5歳)のきょうだい。④阿多田から運ばれて来たハマチをいけすからすくい揚げます。⑤紅白の餅が宙を舞う。



11/21  
SAT

**ハマチtoレモン模擬初競り**  
くば漁業協同組合(たいたいこんぼ)

毎月第3土曜日に開催している「おおたけ水産GOGO市」。この日も新鮮な魚介類を求めて、市内外から多くの来場者でにぎわいました。

阿多田島産のブランド魚として、売り出し中の「あたたまちtoレモン」が、味覚の旬を迎え、GOGO市に初入荷。餌にレモン果汁を混ぜて育てたハマチは、臭みが和らぎ、さっぱりとした味わい。加えて日持ちするということも人気の理由です。

阿多田島から運ばれて来たハマチが水揚げされると、市場で模擬競りが始まり、北林組合長の威勢のいい声で場内に響きます。

新型コロナウイルスに振り回された令和2年。感染症を吹き飛ばせとばかりに、紅白の餅まきが行われました。

